

教職コンソーシアム通信

学びの架け橋



人にまっすぐ。
大阪教育大学

01 オープンキャンパス開催

02 リレーエッセイ

03 交流事業の紹介

05 加盟校出身学生・卒業生の紹介

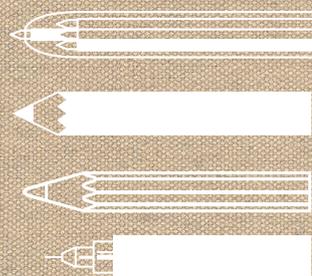
06 加盟校の取り組み紹介

07 大学トピックス／編集後記

オープンキャンパス2017開催 6500人が来場

大阪教育大学オープンキャンパスを、7月29日、30日の2日間にわたって柏原キャンパスで開催し、延べ6578人の受験生、高校生、保護者が来場しました。全体説明会をはじめ、専攻別説明会や模擬授業などはほとんどが満席となり、学生が案内するキャンパスツアーや大学生活について在学生から話を聞けるフリートークコーナーも好評でした。屋外ではダンスサークルなどが多彩なパフォーマンスを披露しました。





信頼を築き上げる

大阪教育大学情報処理センター
尾崎 拓郎

私はもともと人に何かを教えたり、一緒に考えたりすることが好きでした。決してクラスの中で賢いとはいえないものの、誰かが困っていたり悩んでいたりとすると、「どうしたん?」と言っては、一緒に悩んでいたことを思い出します。とくに、高校時代には数学にどっぷりとはまってしまい、試験勉強のときに、教壇に立って教室の黒板をふんだんに使って、思いっきり数式を書いて友達と問題を解き合っているときには、「先生ってこんなところから生徒を見ることができんだな」と憧れを持ち、「この場に立ってみんなに教えてみたい!」と思ったのが、私の教員への道のりの原点です。授業のない土曜日にまで担任の先生を呼んで、教室を開放していただき、クラスの友人らと試験勉強をさせてもらっていたことを思い返すと、いろいろとわがままを聞いてもらっていたのだと強く感じます。

当時通っていた高校は、調べてみると大阪府立高校の「学校情報ネットワーク」導入の第1期校で、入学した当初からコンピュータ利用のアカウントをもらっていたことも記憶にあります。休み時間にいつでもコンピュータを使って調べ物ができるとわかると、コンピュータ教室を管理していた先生に、昼休みに教室を開けていただき、ネット検索やら試験対策ノートをコンピュータで作成するといった、当時の高校生があまりしなさそうなことに必死で取り組んでいました。今から考えれば、貰ったアカウントのメールボックスの容量が上限に達するまでメールを利用したり、コンピュータ教室の鍵を壊してしまったり、先生がたに多大なる迷惑をかけていたなど自責の念に駆られます。

こんなにも多くの先生にたくさん迷惑をかけていた私ですが、今振り返ってみると、それは好奇心やチャレンジ精神の結果としての(私にとっての)失敗であり、そのようなわがままや叱責が

あったからこそ、今の立ち位置にたどり着いたようにも思えます。幸いにもご縁があって、大学教員として、コンピュータ教育に携わる職で未来の先生たちを指導する機会に立ち会えています。

今でも本学附属学校園をはじめとする様々な学校にお伺いする機会があり、多くの先生が日々学校現場で奮闘されている様子を知る機会をいただいています。いつこの学校にお邪魔しても思うのは、先生は子どもたちからものすごく信頼されている存在であるということです。

私が改めて自分自身の高校時代の姿と照らし合わせて考えてみたのが、わがままをたくさん受け入れてくれた、先生の存在です。高校生ときの私は、きっと先生を厚く信頼していたのだと思います。

みなさんは、困ったときについつい先生や友人に頼ることはありませんか。人間、持ちつ持たれつの存在なので、何から何まで甘えていいわけではありませんが、先生は子どもたちから信頼されているからこそ、いろんな話をしてくれます。質問をされることもあれば、悩みを相談されることもあります。しかし、信頼がなければたちまち声をかけてくれなくなります。教師は、子どもたちからの信頼あってこそ成り立つ職業です。

子どもたちと程よい師弟関係を築き、信頼されるべき人として教壇に立てるように、多くの人と話をし、成功も失敗も含めた、多くの経験をしてみてください。



尾崎 拓郎 おざき たくろう
大阪教育大学
情報処理センター助教



教師を志す高校生向けの育成プログラムを実施

教師をめざす高校生を対象とした特別プログラム「教師にまっすぐ」を、7月から8月にかけて計3日間実施し、49人が参加しました。

同プログラムは、府立高校教職コンソーシアム加盟校の1、2年生が対象。同じ志をもつ高校生たちが、講義やグループワークを通じて互いに刺激しあい、未来の教師像をイメージしました。

初日はグループワークを行いました。「理想の教師像」の話し合いでは「生徒のことを一番に考える」「どんな生徒にも信頼される」などの意見が出ました。次に「なぜ学校で学ぶのか？」について考えました。各自が付箋に意見を書き出し、それを集約・整理するという手法で、グループごとにベスト3と少数意見を発表しました。ベスト3には「社会性を身につける」「価値観を共有することで視野が広がる」といった意見があがり、少数意見には「青春を満喫する」「不条理を学ぶ」などがありました。

2日目は本学のオープンキャンパスに参加しました。専攻説明や模擬授業を受け、大学生とも交流

しました。

最終日は、1日かけて課題研究を行いました。大学教員、高校教員、大学院生らも加わり、理科、英語、社会科、プログラミング、ダンスの5つのテーマに分かれました。理科では、ろうそくの燃焼実験のレポートをもとに、評価の観点や尺度を明確にして評価する「ルーブリック」という成績評価の方法を学びました。ダンスでは、本学の保健体育専攻とスポーツ専攻の学生の指導で作りあげた創作ダンスを披露しました。各テーマの研究内容は模造紙やスライドにまとめて発表し、学びを共有しました。

参加した生徒は「たくさんの教師志望の仲間と話し合いができ、とても良い経験になった」「教師になりたいという気持ちを再確認できた」などと感想を語りました。

和田良彦副学長は、「今回の活動を通じて、皆さんが様々な気づきを得てくれたなら嬉しい。またキャンパスで会えることを楽しみにしています」と話しました。



理想の教師像を発表



付箋に書いた意見を皆で整理する



理科実験レポートの評価方法を発表



創作ダンスを披露



教師の力量を形成する「教師の学び舎」を開講

「教師の力量形成」をテーマに、教師塾「教師の学び舎」第6クールを6月10日、7月22日、8月5日の3回にわたり天王寺キャンパスで開講しました。

第6クールは、各回で講師が変わるオムニバス形式で実施しました。木原俊行教授(大学院連合教職実践研究科)「授業力向上のアプローチ-主体的、対話的、深い学びへ向けて-」、島崎英夫教授(教職教育研究センター)「学校全体で取り組む生徒指導・支援のあり方」、林伸一指導参事(学術部)「実践的なキャリア教育の展開-学校教育自己診断等を活用して」、小田浩伸教授(大阪大谷大学教育学部)「今求められる学校における支援教育」の4つの講義が展開されました。

木原教授は新学習指導要領が求める「主体的・対話的で深い学び」を実現する手法について、教科横断的に教育課程を編成する「カリキュラム・マネジメント」によるアプローチを提言しました。島崎教授は生徒指導のイメージについて「教師と生徒が一对一で向き合うものではなく、一緒に目標に向かう

ものではないか」と語りました。林指導参事は「学力の高い生徒が必ずしも社会適合できるとは限らない。主体的な進路選択に向けて、様々な職種・職業を学ぶキャリア教育が重要」と話しました。小田教授は、教育における合理的配慮や基礎的環境整備について解説したうえで、多様なニーズのある生徒には「自分のあるがままの姿を受け止め、自分が大切な存在なのだ」と心から思える『自己肯定感』を持たせることが大切」と力を込めました。最後に、5~6人のグループでこれまでの講義を振り返り、模造紙にまとめて発表しました。

3回の講義を終えて、参加者からは「前向きにがんばろうという気持ちになれた。共に学んだ他校の先生方からも貴重なアドバイスをもらい嬉しかった」「生徒と同じ目線に立ち、一緒に目標を見据えて指導していきたい」「必要な配慮が見えにくい生徒もいる。彼らの特性をつかむ力を養う必要があると感じた」などの声が寄せられました。



木原俊行教授



島崎英夫教授

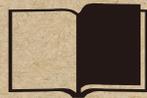


グループワークで学びを共有



3日間の講義を振り返り発表

加盟校出身学生・卒業生の紹介



かけひ あおいこ
笈 葵湖 さん

教養学科自然研究専攻4回生
大手前高等学校2012年度卒



—ずっと柔道を続けているそうですね。
小学校4年生から柔道を始めました。大学でも柔道部に入りましたが、4回生になるまで女子部員は私一人だったので、つらい時期もありました。それでも、柔道が楽しかったから今まで続けてきました。柔道で培った忍耐力は誰にも負けません。

—教員を目指すきっかけは？

父は会社員向けの研修の講師をしたり、母は私や近所の子どもに勉強を教えたりと、何かしらの形で教えることに携わっています。両親とも教員免許を持っているため、その経験が生かされているのだと思います。そんな姿を見ていたので、入学前から、免許を取得していたら将来役に立つだろうと漠然と考えていました。大学で教職の授業を受けて、これが自分のやりたかったことなんだと感じたのをきっかけに、教員を目指すようになりました。

—理想の教師像は？

中学の時に柔道を指導してくださった先生が、勝ったら怒って、負けたら褒める先生でした。勝ったとき

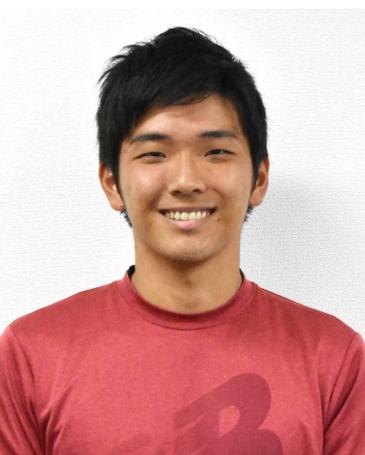
はここで満足せずにさらに成長するように言われて、負けたときはよくやったと褒められ、次に目を向けさせてくれました。私もそのような先生が理想ですね。常に次の成長につながるような指導がしたいです。

—今後の進路は？

今は化学生態学研究室に所属し、主にシロアリの研究をしています。将来を考えたときに、生物の専門知識だけでなく、教育についてもっと勉強したいと思うようになりました。大学院に進学し、学級運営や特別支援などについて学びたいと考えています。

—後輩にアドバイスを。

どんなことも、自分の思った通りにいくこともあれば、うまくいかないこともあります。一喜一憂するのではなく、良いことも悪いこともすべて経験と考え、視野が広がると思います。



にしぐち あきひさ
西口 明寿 さん

教養学科数理科学専攻4回生
生野高等学校2013年度卒

—数学の面白いところは？

数学は抽象的で目に見えない、どういうものを扱っているのかがわからない。だけどそれを頭の中でイメージして、考えていくのが面白いです。数学者はよく登山家に似ていると言われます。めざすのは一つの頂上ですが、そこに至る経路はいろいろです。数学も一つの決まった

解があるシンプルな学問ですが、解に行きつくまでにはいろいろな道筋があるのです。

—部活・サークルは何をしていますか？

ローンテニス部というサークルに入っています。サークルは基本的には大学の施設を借りられないのですが、例外的にコートを貸してもらっているので、週2回は絶対参加の日時を設けて、積極的に活用しています。絶対参加と言うと最初は文句が出るのですが、逆に言うところに行けば皆がいるということ。アットホームで楽しいサークルです。日曜日にはバー

ベキューやスノボ合宿に行ったりもします。他大学とのリーグ戦などテニスの時は真面目に、遊ぶ時はしっかり遊びます。部活とサークルの良いところを両方叶えようというスタンスでやっています。

—受験勉強を乗り越えるのに大事なことは？

目標や課題を設定して、モチベーションをあげることです。例えば来月のテストでいい点を取るというような小さな目標を積み重ねて、大学合格などの大きな目標をつくっていく。行きたい大学が決まっているのに勉強が苦痛な人は、大学生活で何がしたいかとか、どういう自分を夢見ているかを明確にすると、少しはモチベーションに繋がります。

—後輩にアドバイスを。

大学生活は、夏休みや春休みが長く、自由な時間があります。それを有効活用し、大学生活でしかできないことをしてください。僕は富士登山、だんじり、歩き旅など様々なことをやりました。次はフルマラソンに挑戦予定です。来年から教師になることが決まったので、生徒に大学時代こんなことしたと話せるような経験をたくさんしておきたいです。



加盟校の取り組み紹介

MEMBER HIGH SCHOOLS' PROGRAMMES

大阪府立北野高等学校

北野高校は、明治6年(1873年)創立、今年で144年目を迎える伝統校です。生徒たちは、よき伝統をしっかりと受け継いで、勉強だけでなく、学校行事や部活にも積極的に取り組んでいます。校歌に謳われる「六稜魂(りくりょうだましい)」は、本校で培われる逞しい精神を表しており、北野生にとって、大きな力強い指標になっています。



北野の朝は8:10に始まります。朝礼はなく、いきなり1時間目です。授業は65分×5コマですが、始まるのが早いので、15:00にはピッタリ終わります。補講習は基本ありません。あとは最終下校の18:15まで部活三昧。このあたりが、北野生が高校生活を謳歌できる所以です。

土曜日は、北野ならではのスーパープログラムが目白押しです。大人の学びを体感する「知的世界への冒険」、オールイングリッシュで天文学、教育学、ビジネスなどを学ぶ「学内留学」、激しい論理の応酬が繰り広げられる「即興型英語ディベート交流大会」などは「脳みそがフル回転した!」と生徒たちに大好評です。また、国際科学オリンピック、科学の甲子園、京都大阪数学コンテストなど、学校外での「武者修行」を推奨しており、好成績を残しています。

学校行事も多彩です。中でも、府内でも珍しい50mプールで行う本気すぎる水泳大会(9月)、決して「体育祭」と呼んではならない硬派な体育大会(10月)、厳しいオーディションを勝ち抜かないと出場できない激レアな文化芸術祭(12月)は出色です。行事にかけるこのようなこだわりも長い伝統のなせる業で、当分やめられそうにありません。

こだわりと言えば、文武で活躍した生徒が校長の私から厳かに授与されるバッジがあります。その名も「花にらバッジ」(アカデミック)と「木の葉バッジ」(アスレティック)。冬の制服ではこれが誇らしげに生徒たちの襟元を飾ります。



左から北野バッジ、木の葉バッジ、花にらバッジ、クリーンピックバッジ

さて、ここからは大阪教育大学と北野高校とのご縁をお話します。

本校は結成当初から「府立高校教職コンソーシアム」の一員で、大教大の先生方には出前授業や課題研究発表大会での指導助言等、さまざまにお世話になっています。また、今春からは大教大連合教職大学院の院生2名(大石州紀さん、谷口太一さん)に実習の機会を提供しています。最初は、いつもお世話になっているお礼に引き受けようという気持ちが正直ありましたが、二人がとても頑張っておられるので生徒たちが慕い、今では北野に欠かせない存在になりました。来てもらって本当に良かったです!

最後に、本校に一人だけいる大教大出身の先生、数学科の岡本茂雄教諭(132期生1年生担任)を紹介いたします。以下、インタビューをお読みください。

ー出身校は?

岡本:豊中高校から大教大の教育学部中学校数学科を専攻し、大学院数学教育専攻解析学専修を修了しました。

ー先生になりたいと思ったのは?

岡本:中学校の時です。バスケット部で勉強と部活に明け暮れていました。公文式で数学大好き子になっていました。

ー「大教大と私」で一言。

岡本:同級生はみな教えることが好きで、塾や家庭教師のバイトも一緒。同じ目標をめざす友人が多く、困ったときに相談もしやすいです。

ー大学院での勉強は?

岡本:学ばないと損だという気持ちに自然になれました。大教大だから専門外の授業もいっぱい選択して幅広く学べました。北野で教えていて、院で勉強したことが本当に役立っていると実感しています。

ー先生をめざす高校生に一言。

岡本:何事にも物怖じせずチャレンジしてほしい、自ら学びに向かってほしい。人を教える教師としていちばん大切な資質だと思います。

今後は、教職コンソーシアムが一体となって、主体的、協働的に大教大との連携を充実させていくことができると思います。北野高校ができることは何でもします!

(校長 恩知 忠司)

海外留学へ飛び立つ学生が 学長表敬

夏に海外協定校へ留学する学生8人が栗林学長を表敬訪問し、留學生活への抱負を語りました。

学生たちは、文部科学省や公益財団法人などから奨学金を獲得したことを報告し、留學先で行う研究やフィールドワークについて説明しました。大学院教育学研究科社会科教育専攻1回生の片山元裕さんは、「帰国子女や外国人児童に対する教育を研究します。日本と同様の教育課題をもつ韓国で、学校や教員がどのようにアプローチしているかを分析したい」と意気込みました。教養学科文化研究専攻3回生西村春奈さんは、「国際協力に関心があります。国をあげて途上国への開発援助を積極的に行っているスウェーデンで、そのあり方や国民の理解を得るための取り組みを学びたい」と述べました。

栗林学長は「皆さんは留學にあたり、奨学金を獲得するために大変努力したと聞いている。奨学生としてふさわしい、実り多い留學生活にして欲しい」と期待を寄せました。



お菓子を使ったプログラミングの 体験イベントを開催

お菓子を使って学習できる無料アプリのプログラミング教材「GLICODE®(以下、グリコード)」の体験イベントを、附属図書館内たまごギャラリーで開催しました。

2020年の学習指導要領改訂に伴い、小学校でプログラミング教育が必修となります。江崎グリコ株式会社が開発したタブレット・スマートフォン向けアプリ「グリコード」は、同社のお菓子をルールに基づいて並べカメラで読み取ると、プログラミングの命令に変換されて画面内のキャラクターが動きます。障害を避けてキャラクターをゴールまで導くゲームを通じて、「順番に実行」「繰り返し」「場合分け」というプログラミングの基礎的な考え方を楽しく学ぶことができます。

参加者アンケートでは「子どもの興味を引きつける教材になっている」「プログラミング教育の導入として面白い発想だと思う」などの感想が寄せられ、全員が授業に取り入れたいと回答しました。



編集後記

「今ごろ?」と思われるかもしれませんが、大阪教育大学公式Twitterを今年7月に開設しました。キャンパスの日常を(ほぼ)毎日つぶやいているほか、イベント情報や学生の活動、その他いろいろなニュースなど、できるだけタイムリーにお届けできるようがんばっています。

それにしても、140文字で伝えるのは意外と難しいです。詳しく書こうとすると足りないし、かといってイベント名とリンクだけではあまりにも味気ないし…と、試行錯誤の真ん最中。文体もテンションもブレまくりです。

ほんのりユルく、楽しく見てもらえるアカウントにしたいなと思っています。フォローよろしくお願ひします。

(F)

大阪教育大学のSNSアカウント



公式Twitter new

@OsakaKyoikuUniv

<https://twitter.com/OsakaKyoikuUniv>



公式Facebook

<https://www.facebook.com/OsakaKyoikuUniv>



公式Instagram

<https://www.instagram.com/osakakyoikuuniv/>

イベント情報やニュースなど、大教大の「今」を発信しています。ぜひフォローしてください。